台湾のガム：檳榔（ビンロウ）

S.H（台湾）

台湾の田舎の特に高速道路の出入り口の近くで、この「檳榔」（ビンロウ）と書いてある店がたくさんある。

檳榔はいったいどんなものでしょう？実は檳榔とは、「檳榔樹」という木の未成熟な実で、1年に1回実をつけるそうだ。台湾では、もともとこの檳榔を噛むことは、原住民の嗜好だったそうだが、今では原住民以外の人にも広がってきた。現在、店で売っている檳榔は、檳榔の実を加工して、キンマという植物の葉っぱで包まれたものであり、添加物として石灰や色素が入っている。

檳榔の風習があまり好ましくないと言われている。なぜならば、よく食べる人の口の中は真っ赤になってしまうからだ。檳榔の食べ方として、檳榔樹の実を石灰と一緒に口の中でガムのように噛んで、最後に口の中にたまった汁を道端に吐く。その吐き出された汁は赤くて、まるで血のように見える。ということで、檳榔を噛み終わったタクシーの運転手さんとかがいきなり檳榔を吐き出すのを見て、血を吐いていると誤解してびっくりする外国人もいる。



（檳榔の実）



（檳榔樹）

檳榔には体に悪い依存性がある。噛むことは喫煙と似ていて、習慣性がとても高い。ただし、違法ドラッグではない。檳榔の中に入っている物質が副交感神経を興奮させる作用と陶酔効果もあって、飲酒のような感じがする。噛んだら気分が盛り上がって、目が覚めるということから、夜通しで車を運転するトラックの運転手などに特に愛用されている。

「西施（＝中国語でシースー）」というのは中国古代４大美女の１人で、美しい女性の代名詞となっている。その意味から、今では檳榔を売る綺麗な女性の事を「檳榔西施」と呼んでいる。檳榔業者は売り上げを高めるために、若い販売員を雇って、露出の高い服を着せて客を集めようとしている。雇われた檳榔西施はネオンに飾られた透明な小さなボックスの中で、高い椅子に座って、足を組みながら檳榔の実に石灰を塗る作業を行う。もし車で乗り付けてきた客を見つけたら、檳榔作りの手を止めて外に出る。

そして運転手さんからの注文を聞いて商品を取ってくる。揃えている商品は檳榔以外に、タバコ、缶ジュースもある。また、時間は深夜遅くまで営業している。



（露出の高い服を着ている檳榔西施）



（檳榔西施）

今、台湾では、檳榔の赤い汁を勝手に道に吐き出す人がいるため、環境問題になっている。ほかにもいくつかの問題がある。

まず、檳榔には発癌物質が含まれているので、常用すると口腔癌になる確率が高い。そして、檳榔の木の根が深くないため、台風や大雨の日に、土砂くずれを起こしやすくなり、環境を破壊する恐れもある。さらに、競争が激しくなるにつれて、露出の高い服を着たり、道で踊ったり、過激なパフォーマンスをして客引きする檳榔西施もいる。このような風紀上の問題は台湾のイメージダウンになってしまう。

また、セクシーな檳榔西施をじっと見てしまう運転手もいるので、横見運転による交通事故も少なくない。

檳榔による問題はたくさんあるが、改善方法として檳榔を噛むことを禁止すると、一方で、これまで檳榔で生計を維持している人はどうすればいいのだろう。これはまた新しい社会問題になるのではないだろうか。



（檳榔を売っている店の昼間の様子）



（夜、ネオンに飾られた店の様子）